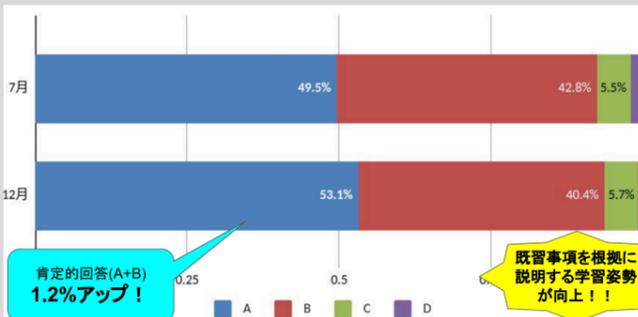
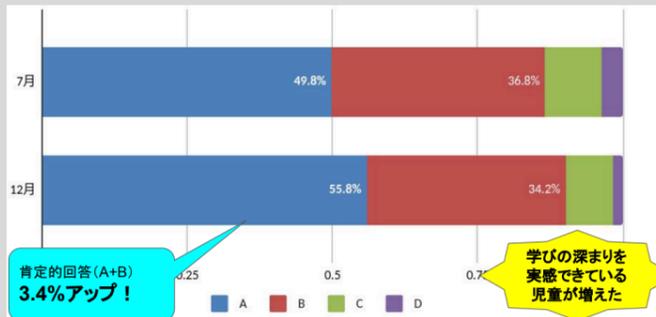


Q. 算数の問題を解くときに、これまで学習したことを使って、考えようとしていますか。



Q. 友達と話し合いをすることで、自分では気付かなかったことを知ったり、今までよりも「分かった」と感じたりすることはありますか。



既習事項を、単なる知識ではなく、**問題解決の手がかり**として捉える態度が、学年を越えて定着しつつある。

対話を通して児童の考えが広がったことが分かる。

成果と課題

1 成果

- 児童の発言を起点とした問い返しにより、**対話が思考を深める学習手段として機能**し始めた。
- 実態調査(3~6年)では、算数学習に対する困り感が減少し、**既習事項を生かした思考や、話し合いによる理解の深まりを実感する児童が増加**した。
- 問い返し、考えの可視化、相互指名等を組み合わせた授業改善や、「マエハラレスポンス」を取り入れたことによって発言しやすい教室環境が整い、**粘り強く問題に取り組む姿**が見られるようになった。

2 課題

話し合いに対する心理的負担を感じる児童もおり、対話の価値付けや質の向上が課題である。今後は、

- 「問い返し」の焦点化
- 根拠をもった説明力の育成
- 参加の偏りを減らす授業運営
- タイムマネジメントと振り返りの活用を通して、学びを深める対話の充実
- 列指名など、挙手していない児童の発言の場の確保
- 教師による称賛や価値付けを図る必要がある。



研究紀要や指導案集などの資料はこちら

研究主題

活発な対話を引き出す指導の工夫

～学びの深まりが実感できる算数科の授業を目指して～

目指す児童の姿

「活発な対話」をしている

「活発な対話」をしている姿とは・・・

思考の揺さぶりや理解の深まりによって**対話の必然性**が生まれ、「考えたい」「言いたい」などの言葉が自然と出てきて、**主体的に伝えたり聴いたりしている状態。**

【対話時における具体的な姿】

高学年

自分の考えを広げている。相手の考えを受け入れるかを判断している。
「付け足しがあります。」「〇〇さんと少し似ていて・・・です。」
「本当にそうかな。」「ちよっと違うと思います。」



中学年

自分の考え(理由、説明)を伝えている。相手の考えを受け止めている。
「ぼくは～と思います。なぜかというと・・・。」「理由は・・・からです。」
「わかりました。」「もう一度教えてください。」「どうのことですか？」



低学年

自分の考えを表している。相手の考えに反応している。
(例)「ぼくは～と思います。」
「同じです。」「なるほど。」

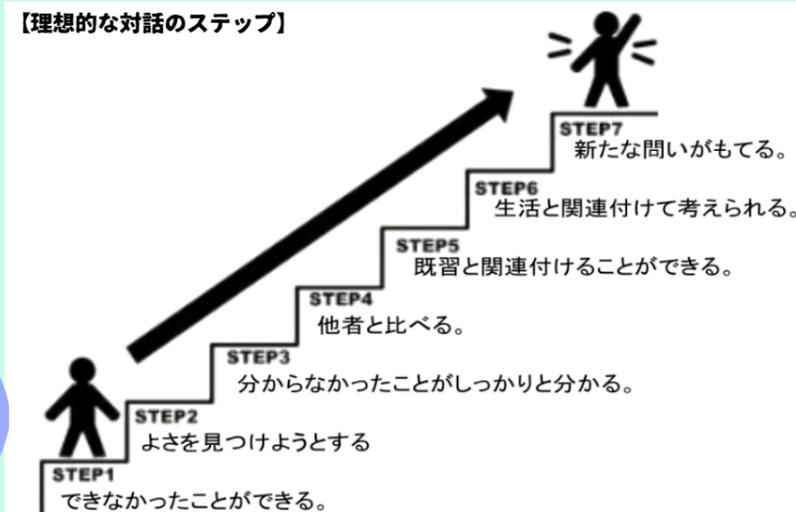


「学びの深まり」を実感している

「学びの深まり」を実感している姿とは・・・

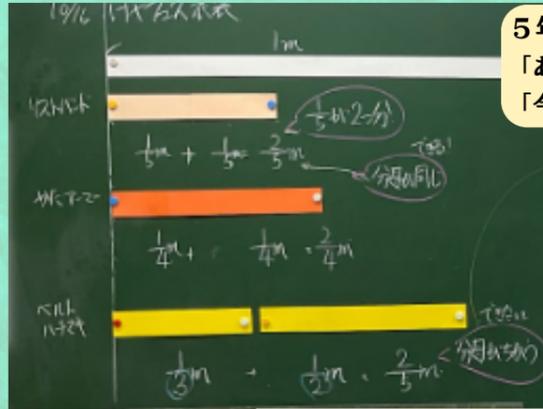
- 対話交流の場面で、**友達との対話を通して、**思考の変容**を実感すること。
- 振り返りの場面で、**本時で達成・解決できた**課題を振り返るとともに、自身の思考の変容**を確認できること。

【理想的な対話のステップ】



手だて①【 問題提示の工夫 】

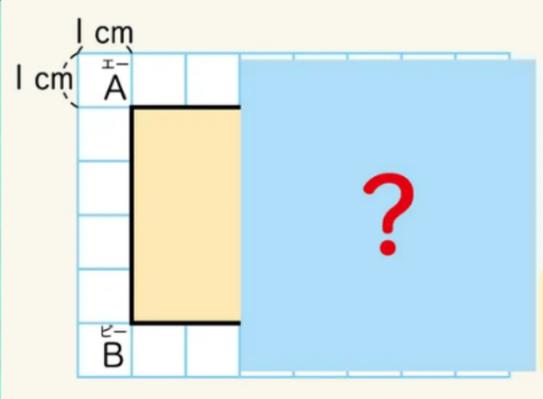
児童の思考を揺さぶり、「考えたい」「話したい」という思いを引き出すことで対話の必然性が生まれるように工夫しました。



5年【分数の足し算と引き算】
「あれ？」
「今までは計算できたのに・・・」



6年【比】
「何かきまりがある？」
「もしかしたら！」



4年【面積】
「もっと見たい！」
「これだけじゃ分からない」

手だて②【 一往復半の対話 】

対話を通して、全員が数学的な見方・考え方を「経験」「理解」できるように工夫しました。

■対話の編成

- ・ペア、トリオ（同質、異質 他）
- ・全体

【対話を通して】

- ・自分の考えを明確にする
- ・友達の考えを説明する、言い換える
- ・共通点や相違点を見付ける
- ・困っていることを伝える
- ・相手の考えを理解する
- ・よりよい考えを見いだす
- ・発展的思考を引き出す

★対話に最適な場面は・・・

心が揺れた場面／ねらいに迫る場面

★対話する内容はシンプルに！

みんなが話せるように

■問い返し

児童の考えを整理し、意味や理由をはっきりさせる

【かみくだく問い返し】

- ・揺さぶる「本当に？」
「たまたまじゃないの？」
- ・説明させる「どういうこと？」
- ・理由を問う「どうして？」
- ・まとめる「つまり？」

【つなげる問い返し】

- 「～さんはどう？」
- 「って言ってるけど・・・」
- 「今ので分かった？」

一人の児童の考えを他の児童につなぎ、対話を広げる

手だて③【 学びの深まりを実感できる振り返り 】

振り返りを通して、自己の思考の変容を実感することや、次の課題（問い）を見付けることができるように工夫しました。

③ りかえり

- ・～がわかりました。
- ・〇〇さんの考えを聞いて～と思いました。
- ・今日の考えは、～と同じだ（にている）と思いました。
- ・今日の考えをつかえば、～もできそうです。
- ・つぎは、～してみたいです。

2年生
「振り返りの視点」の提示

振り返りの書き方を定着させることができ、ここにはない視点が児童から挙がるなど、応用することにもつながります

10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日	
...

6年生

「コラボノートEX」を用いた振り返り

本時の全員の振り返りを一度に確認することができます

5年生
ロードマップ形式の振り返り「マエハラタイムマシン」

児童の考えの変遷が一目で分かります

マエハラタイムマシン 分数	① 10月14日	② 10月15日	③ 10月16日
まとめ	もし分母同士が違う数でも2つの分母の倍数に直せば計算することができる。	分子と分母を同じ数かけたり割ったりしたら同じように求めることができる。	まとめ 最小公約数で割ると約倍ができる。
タイムマシン	さんの意見がわかりやすく良いと思ったなら数をわかりやすく求めることができると思った。	タイムマシン 大きな等しい分数を求めるときは大きな数はたくさんあって無限に続くと思いました。	タイムマシン さんとさんの考えで早く簡単に求めたい。さんの考えで正確に求めたい。
④ 月 日	⑦ 10月28日	⑥ 10月23日	
まとめ	1時間を何等分したかによって分母の数が変わる更にいうと何時間で表すときに60で割れる数であれば表せる。	まとめ 分母が異なるときは分母同士を掛け合って通分して→約分すれば良い。	

■マエハラレスポンス

活動の中で出た児童の自然な反応を、「マエハラレスポンス」として掲示・共有し、対話の活性化につなげました。

